

ようこそ 第2回丸亀まちづくりラボへ!



第2回 ～目指す姿を考えたよ
協働の魅力～

開会

ウォーミングアップ

事例紹介「丸亀城ボードゲーム製作事業」
さめきファミリーゲーム倶楽部
代表 林賢治さん

ワークショップ

写真撮影・閉会

7月22日（土）に第2回丸亀まちづくりラボを開催しました。今回も計33人と多くの方にご出席いただきました。今回は、グラフィックレコーダーの岩下紗矢香さんをお招きし、第2回まるラボの様子をリアルタイムに記録していただきました。

事例紹介「丸亀城ボードゲーム製作事業」 さめきファミリーゲーム倶楽部 代表 林賢治さん

コロナ禍で、観光分野の低迷が続いていたことをきっかけに、ボードゲームを通じて丸亀のPRを行うため、令和3年度の提案型協働事業※としてさめきファミリーゲーム倶楽部と丸亀市産業観光課が、丸亀城を舞台にしたボードゲームを製品化する事業を実施しました。

協働する際に大切なことは「役割分担」です。さめきファミリーゲーム倶楽部はボードゲームの製作、ゲーム内容や面白さのPRを行い、産業観光課は配布先の開拓を担当ということで、学校や丸亀市の交流都市への配布のほか、ふるさと納税の返礼品として全国に向けて提供するなど、お互いの強みを生かすことができた事業となりました。

この事業により、ボードゲームそのものをアピールするとともに、丸亀市を広く発信することができ、協働事業ならではの成果につながりました。

グラフィックレコーディングとは皆さんの対話を書き出し、「見える化」することです!

※提案型協働事業とは市と市民活動団体が協働で事業を実施することで、各々が単独で行うよりも効果を高め、質の高い公共サービスを提供することを目的とした事業です。

協働事業を実施したお二人に、協働の魅力について語っていただきました

さめきファミリーゲーム倶楽部 林さん

コミュニケーションとお互いをリスペクトしあうことがとても大切です。協働したことによって、自分たちではできなかった成果につながって楽しかったです。協働に対して迷っている方、まずはチャレンジしてください!



産業観光課 宮竹さん

対話を重ね、お互いにどれだけ理解しようとするかがとても重要です。市としてどこまで関われるかを考え、団体の良さを生かした事業となるように真摯に対応しました。やりがいがあり、達成感を感じた事業でした!

ワークショップ

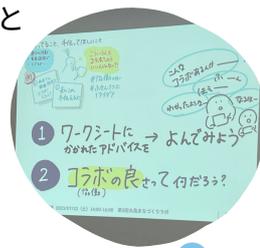
一つ目のワークは、現在、自分が困っていることや、手伝ってほしいことを3つ書き出し、それぞれに対してグループのメンバーがアドバイスを出し合うというものでした。「まちに活気がない」や「人との出会いが少ない」、「情報発信、広報活動の仕方がわからない」などの困りごとに対して、「〇〇課に相談してみる」や「サークル活動に参加する」、「インスタグラム（SNS）がいいのでは？」など、様々な立場から意見が出されました。



次は、課題を個人から地域社会に移したワークです。「社会問題カード」「協働の担い手（パートナー）カード」「必要なこと・ものカード」の3種類を使い、2040年に想定される社会問題の解決策について考えるものです。社会問題カードを1枚引き、示された社会問題に対して、どこの団体とどこの団体がどんな協力をすれば問題の解決につながるかを話し合い、グループで出た意見や考えを発表しました。例えば、若者の市外流出の社会問題に対しては、市の産業観光課による企業誘致や、香川大学から学生へ企業情報の提供を行うなどの意見が出ました。

今日の振り返り

最後に岩下さんのグラレコを使った振り返りを行いました。協働の魅力は、自分だけではできない部分がありながらも、それをお互いの強みで補完し合うことによって、より良い成果が得られることです。今回のワークショップでは、強みを活かし合える仲間を探す感覚をつかんでいたことと思います。



第2回の丸亀まちづくりラボは「目指す姿を考えよう、協働の魅力」をテーマに、協働することの魅力について考える回でした。第1回とは雰囲気が変わり、グループのメンバーで楽しくコミュニケーションを取りながらアイデアを出し合いました。第3回は、今回考えた協働が生まれるために必要なことについて話し合う回です。みなさま、お楽しみに！